



SUPPORTERS CLUB NEWS
友の会 会報
TAKAYAMA-UICHI MEMORIAL MUSEUM OF ART

〒039-2501
青森県上北郡七戸町字荒熊内67-94
七戸町立鷹山宇一記念美術館内
鷹山宇一記念美術館友の会
〈TEL〉0176-62-5858 〈FAX〉0176-62-5860
〈e-mail〉takayamamuseum@ruby.plala.or.jp



【東部七戸貝町観音堂庶民信仰資料／東部七戸小田子不動堂奉納絵馬から】

● ミュージアム「レクシオン」から ●

『東部七戸貝町観音堂庶民信仰資料』
『東部七戸小田子不動堂奉納絵馬』

「ミュージアム「レクシオン」という言葉には馴染まないかもしれませんが、正確に伝えるならば、1396年室町期の創建と伝えられる七戸町の見町観音堂と小田子不動堂から、文化財保護のため絵馬収蔵庫にお預かりし、その保存・管理をさせていただいている貴重な資料たちです。

これらは、見町観音堂と小田子不動堂をめぐる庶民信仰の実態と推移を理解する上で貴重であるばかりでなく、良馬の産地として古くから著名だった南部地方における江戸時代の絵馬奉納の特色を示すものとして、量・質ともに優れた東北地方の奉納絵馬の代表的なものとして重要である、この理由から、平成2年、国の重要有形民俗文化財に指定されています。

どのような資料か？簡単に「説明すると、大部分が江戸時代に奉納された木製のもので、「南部小絵馬」と通称される小田子不動堂108点、見町観音堂185点の小絵馬をはじめ、見町観音堂創建当初からの棟札14点、同じく室町期をくたらない時代のもつと言われる羽子板14点、室町期の観光上人を含む順札札8点、その他の信仰資料138点。お堂ごと合計すると小田子不動堂108点、見町観音堂359点となります。これらにより、七戸を中心とするこの地方の絵馬等資料奉納の時代的推移を理解できるばかりでなく、当時の人々の、資料に託した切なる願いや祈りの心に触れることができます。

このように貴重な資料が今に伝えられているのは、永きにわたり大切に守られてきた見町観音堂、小田子不動堂の所有者の方々と、これらを研究しその価値を広めてくださった諸先生方の「労苦の賜物です。文化財を将来の世代に引き継ぐため大切に保管するとともに、国民共通の宝として尊重し、愛護する意識を醸成するため、資料の一部を公開しています。是非ご鑑賞いただき、古から現代に至る様々な人々の心情にも思いを馳せていただけたらと願っています。

（学芸員 大沢 亜希子）

「東奥日報」新聞紙上に掲載

県内回覧「学芸員日誌」から ● 本日の当番 大池 亜希子 ●

東奥日報社新聞紙上に昨年7月からおよそ週一回のペースで火曜日に連載されている「学芸員日誌」は、青森県内の美術館・博物館の学芸員が持ち回りで執筆するエッセーです。

準備や後日談など展示会の紹介や、作家や鑑賞者との触れ合いからのエピソード、美術に関する考察など、学芸員の目をおして感じたありのままを紹介することにより、アートや美術館・博物館に一層親しんでいただこうというものです。

当友の会の活動が本年1月16日(火)に紹介されましたので、ここにあらためてご案内いたします。

新しい一年が始まりました。一日ひとときを大切に、身も心も健やかに、穏やかに豊かな時間を過ごしたいものです。

今年十三才になる鷹山宇一記念美術館ですが、私たちには同じ年月を共に歩んできた「親友」がいます。「鷹山宇一記念美術館友の会」です。

一九九四(平成六)年十一月に発足し、現在会員数は当初の二倍以上となる四百四十人。『鷹山宇一記念美術館の活動に協力し、美術に関する知識と教養の向上を図り、楽しい交流を深める機会を多くし、美術を中心とした芸術文化の振興発展に寄与する』その本旨に沿った堅実な活動の賜でしょう。少しづつではありますが仲間が広がっています。

これら一切の事業が会費収入のみで、会員の手により自主的に運営されていることは昔も今も変わりなく、しかも、庶務をはじめ美術館の様々な事業へご協力くださる人たちは手弁当のボランティア。その志高

く、意欲的な活動には本当に頭が下がります。

ますます盛んな事業の一端をご紹介すると、会員と会員をつなぐ会報を年四回発行。友の会や鷹山美術館、美術に関する情報をいち早くお届けします。また、美術講座や講演会、国内外の美術館を巡る研修会を開催。

運営支える大きな力

県内回覧「学芸員日誌」

友の会活動



友の会入会者は随時受け付け中。写真は2024年のイタリア国外研修で(撮影提供)

※本文の掲載、転載については、東奥日報社のご承諾をいただいています。

海外研修ではこれまでスペイン、イタリア、今年六月には南仏・パリへ出発です。学び、高め、会員相互の交流を深めます。そして、鷹山美術館の事業への協力。特別展では式典のスタッフとして、また、会期中の展示会場の保守活動など人的支援はもちろん、作品収集もままならない鷹山美術館に指定寄付をするため、絵画購入のための積み立てを行っています。

人と人とアート、人と美術館、人と人をつなぐ友の会の活動は、美術に関する教育普及にとどまらず、「いかに豊かに生きるか」という生涯学習の側面がより強いように思います。会員の皆さんの生き生きとした表情がそれを物語ります。ここには美術を活かした「人づくり」があります。そして、有志結社的な友の会がこのように堅実に組織を持続してきた秘密もまた、そこにありそうです。

振り返れば、すべての始まりは「鷹山宇一」という一人の画家から、ではなかったでしょうか。匠としての心意気強い画人・鷹山宇一を敬愛した町民の熱意から草の根運動へと発展し、ついに美術館開設を実現のものにした…あの時代を支えた人々の精神を、友の会は確固と受け継いでいる、そのように感じられてなりません。個人の利益や見返りを求めるのではなく、この地の未来や、その未来を担う子どもたちの豊かな心を育む、美術館という特性を活かした人づくり・地域づくりをただただ純粹に願ひ求めたあの熱い思いが、同じ根底にあり、大きな柱となつて、今私たちを支えてくれているのです。

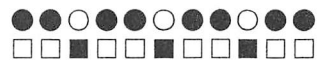
美術館特別展「アートになった椿展」 監視ボランティアのお誘い

友の会会員の皆様へ

いよいよ鷹山美術館春の特別展が始まります。「アートになった椿展」では、尾形光琳・横山大観・岸田劉生など皆さんもご存知の、美術の教科書にも取り上げられる芸術家たちの名品が展示されます。

展示作品の安全と鑑賞環境を最適に保つため、友の会会員の皆様のご協力が是非とも必要です。ご興味がおありの方、詳しくは美術館までお問い合わせください。

TEL 0176 (62) 5858



平成19年度 特別展

今年度は下記4企画で
皆様のご来館を
お待ちしております

①

4月22日(日)～6月10日(日)
～万葉の花・恋の花～
アートになった椿展
あいおい損害保険株式会社コレクション

②

7月15日(日)～9月2日(日)
元氣100倍! やなせたかしと
アンパンマン展 (仮称)

③

11月3日(土・日)～11月18日(日)
第67回国際写真加ノ展
第5回女性写真公募展

④

11月24日(土)～1月27日(日)
第7回鷹山賞児童作品展
第7回地球環境世界児童
画コンテスト優秀作品展

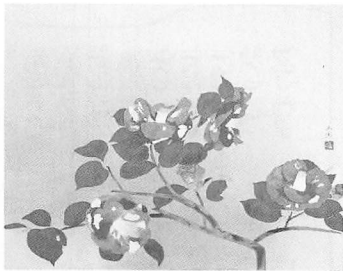
※①～③会期中は無休※

入館時間
10:00～17:30
(閉館は18:00)



① 万葉の花恋の花 アートになった椿展 あいおい損害保険株式会社コレクション

私たちの身近な花として広く親しまれている椿は、北限の自生椿を有する青森県においても大切なふるさとの「花」です。古くは「古事記」「日本書紀」などにその名を見られ、また「万葉集」にも詠まれるなど、古今を問わず、多くの人々に愛されてきました。江戸時代には伝統品種ばかりでなく園芸品種も数を増し、茶道の世界でも炉の花として重宝された椿は一大ブームを巻き起こしました。芸術家たちも例に洩れず、その魅力に惹かれこの花を題材に取り



▲奥村土牛
「紅椿」1955年頃

▶尾形光琳
「椿図時絵硯箱」
江戸時代



アートになった椿展 Information

■入館料(税込)■

一般850(650)円、学生400(320)円、
小中学生200(160)円

※()内は前売、団体、県民カレッジ受講者、
JAF会員割引料金。

※前売券はサークルKサンクス県内各店で
お求めいただけます。

※友の会会員の皆様は特典どおりご入
館いただけます。

■お呈茶■5月20日(日)
「茶道裏千家七戸会」によるお呈茶
のサービスがございます。

上げて、絵画や工芸品に美しく表現
しています。

当館では平成12年に「椿絵」展を
開催しましたが、度重なるご要望に
お応えし、再度「あいおい損害保険
株式会社コレクション」から、日本
画、洋画、工芸各界の我が国を代表
する60人の芸術家による、多彩に表現
された「椿」80点をご紹介いたします。
この機会に優れた「椿絵」の魅力
を存分にご堪能いただければ幸いです。
名品の数々は、大きな感動を呼
び起こすものと信じてなりません。
お誘い合わせのうえ是非ご来館く
ださい。皆様のお越しを心からお待
ち申し上げております。

② 「夏休み特別企画」元氣100倍! やなせたかしとアンパンマン展

TVアニメでも大人気の「アンパ
ンマン」。愛と勇気と優しさあふれる
正義の味方「アンパンマン」は多く
の子どもたちの心を捉え、昔も今も
みんなのヒーローです。

その生みの親・やなせたかしさん
は、今年88才になりますが、旺盛な
制作意欲は衰えることなく、絵本作
家・漫画家としてはもちろん、詩人
・画家・デザイナー・作詞家・作曲
家・雑誌編集者など、たくさんの顔
をもつまさに「多才の人」です。

月刊『詩とメルヘン』では責任編集
者を務め、また、今も多くの人々に歌
い継がれている『手のひらを太陽に』
は、やなせたかしの作詞によるもので
す。本展では、「アンパンマン」を中心
に、やなせたかしの原画や、『詩とメル
ヘン』表紙原画、そしてやなせたかし
直筆の詩などにより、やなせたかし
さんの仕事を検証するとともに、そ
の心温まる世界を、親子でご家族で、
今一度再確認していただくとう願い
で開催するものです。

③ 第67回国際写真サロン展 第5回女性写真公募展

当館恒例の特別展「国際写真サロ
ン展」は、写真表現の可能性に挑戦し、
プロ・アマ、国内外を問わず応募でき
る、全日本写真連盟主催の写真コンテ
ストから、入賞作品130点を紹介するも
のです。また併催して、全日本写真連
盟関東本部管内の女性会員をはじめ、
この地域の一般女性を対象に作品を公
募する「第5回女性写真公募展」から
入賞作品50点を紹介します。

④ 第7回鷹山賞児童作品 画コンテスト優秀作品展

郷土の画家・鷹山宇一を顕彰し、「子ども
の感性は風土の中で培われる」との精神の
下、青森県南部地方小中学校児童生徒
に作品を公募する「鷹山賞児童作品展」
から、入賞・入選作品を展示します。ま
た、併催として、財団法人日本品質保
証機構、国際認証機関ネットワークが
主催する、世界各国の子どもたちに地
球環境をテーマに作品を公募した絵画コ
ンテストから、優秀作品を紹介します。

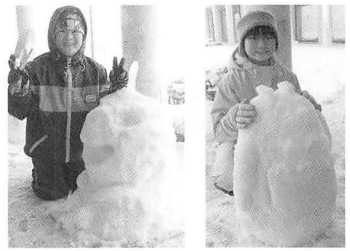
子どもたちのための
ワークショップから
Report!!

いちょうこくらぶ
ま〜っと!くらぶ



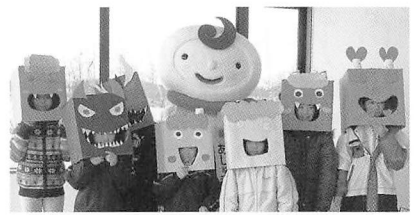
この日は、青森県の「こども」の豊かな心を育むあしゅまる運動」のシンボルキャラクター「あしゅまる」が豆まきのため

「いちょうこくらぶ」からは、2月3日の『節分』の様子をご紹介します。
美術館に集合したメンバーは、まずオリジナルのお面づくりに取り組みました。箱形ですっぽりかぶるタイプのお面です。最初に口の位置と形を決めます。この口の部分から自分の顔が出るようにします。口を切り抜いたら色を決め、箱に色画用紙を貼っていきます。それが終わったら、あとは自分だけの鬼になるように目や角、牙や髪の毛をつけていきます。それぞれ独自の工夫を凝らして一生懸命制作しました。



部品のくっつけるには雪に水を混ぜてシャベットのを使います。寒い中でしたがこつこつと作業を続け、みんな立派な作品が完成しました。

「あ〜っと!くらぶ」からは、2月4日の『雪像づくり』の様子をご紹介します。記録的な暖冬となっている今シーズンですが、当日は雪がふぶき、雪像づくりにはもってこいの天候となりました。各自で制作テーマを決め、雪像の前後左右のスケッチを描いて、制作に取り組みました。大まかな形になるまで雪を固め、それから細かいところを加工していきます。スプーンやシャベルの先を使った、慎重な作業が続きました。



に美術館に遊びに来てくれました。完成したお面を使ってかわりばんこに豆まき。鬼が嫌がって出て行ってしまおうくらいにぎやかに盛り上がりました。最後はあしゅまるとはいっしょに楽しい豆まきでした。

○美術館からご案内

スペイン民芸資料館臨時休館

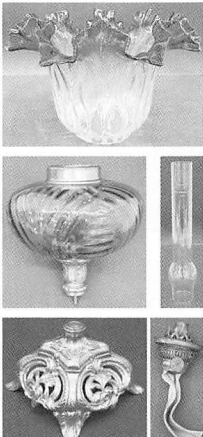
○●●●●●4月21日

スペイン民芸資料館を会場に、未公開の鷹山宇一ランプコレクションを調査し、展示可能な状態に復旧するため、スペイン館を臨時休館いたします。何卒ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

このほかの絵画室、ランプ館、絵馬館は通常通り常設展をご観覧いただけます。



鷹山宇一収集のランプ ▶全体像 ◀分解して



●鷹山宇一が収集したランプは、燃料が石油のオイルランプです。笠・ホヤ・バーナー・油壺・支柱・台座と、それぞれの部分・素材別に専門職人により作られ、最後に組み立てられます。今回、資料調査とともにこれらを分解しきれいに磨き、てくすで固定しました。

○ 展覧会のススメ ○



▲本展チラシより一部を抜粋し掲載、紹介しています。

「北京故宮博物院展」

〜清朝末期の宮廷芸術と文化〜
●会場 青森県立郷土館
●会期 3/24(土) ↓ 4/22(日)
●時間 午前9時〜午後5時
●入館料 一般 一五〇〇円
●学生 一〇〇〇円
※入場は30分前まで

青森テレビと県立郷土館主催による本展は、中国が世界に誇る博物館「北京故宮博物院」の所蔵品から、女帝・西太后とラストエンペラー宣統帝溥儀の2人に焦点をあてて構成する展覧会。衣装や宝飾品など愛用の美術品約120点が展示されます。この機会にご鑑賞してみたいかがでしょう。
※当友の会会員の皆様には特別料金一〇〇〇円にてチケットをご用意しております。鷹山美術館までお申し込みください。(TEL 0176-62-5858)

博物館実習レポートから

当館では平成18年度6名の実習生を受け入れました。実習を終えての感想を、前号に引き続き2名にレポートしていただきました。

北里大学獣医畜産学部動物資源学科4年

齋藤 寛之

11月14日～18日までの5日間、鷹山宇一記念美術館で学芸員養成課程における博物館実習をさせていただきました。主に私は作品の展示替え、それに伴う解説パネルづくり、鷹山賞児童作品展の授賞式の会場設営や式典の記録写真の撮影を行いました。これらの作業を通じて多くの工夫や苦労を感じることができました。

特に展示においては、ミリ単位の誤差や誤った展示により、作品を見にくくしてしまったり、汚くみせてしまいかねないことを知りました。大学の学園祭での展示や普段の掲示物が数ミリ傾いていようが気にとめる人はほとんどいないと思います。しかし、美術館における学芸員には、作品を正しく、美しく見せる義務があります。また、来館者は当然のように美しいものを見るために美術館へ来るのです。見にくく、美しく感じられない展示で見る人をガッカリさせたり、気分を害したりさせてはいけないと感じました。一作品のた

った数ミリの傾きが、全体では数センチの傾きへとつながるのです。この微妙なミスに気づき、自分に妥協せず、何度でもやり直せる忍耐力を持った人が学芸員なのだと感じました。そのため、今回私たちが展示した作品には何度もチェックが入り時には掛けそつになりました。しかし、私たちの中途半端な展示に妥協無く注意を入れてくださったため、完成した自分たちの展示には、自信と誇りを持って披露することができました。また、今回の実習でこの美術館は地域と密になり、協力し合って館を運営しているのだと感じました。この美術館を訪れる業者さんやボランティアにきてくれる地域の人々、彼らはこの美術館が自分の館であるかのように作業し手伝ってくれました。これは、展示や企画の効果もあるのかもかもしれませんが、最大の要因はこ



●前号で紹介させていただきました実習生林君(中央)、そして齋藤君(右)・松井さん(左)は、誠実に熱心に仕事に取り組みました。今後はきっと、務めを立派に果たすことのできる社会人としてご活躍されることでしょう。

の美術館を運営している館長をはじめとする職員の方々の人間性にあるのだと感じました。美術館を訪れる人々は、職員の方との会話も楽しみに来ているようです。会話から互いの苦労を知り、手伝おうという気持ちになるのだと思います。私自身、職員の方々とお話をさせていたただくことで元気になり、もっと頑張ろうと奮起させられました。この美術館の地域に根付いた形態は、現代の博物館の理想的な形であると考えます。最後に、短い間ではありましたが、本当に多くのことを学ばせていただきました。また、実習を快く引き受けてくださいました館長の鷹山さんをはじめ、指導してくださった学芸員の大池さん、職員の皆さん、本当にお世話になりました。心より深く感謝申し上げます。

*** **

北里大学獣医畜産学部動物資源学科4年
松井 ゆかり

鷹山宇一記念美術館での実習では、鷹山賞児童作品展という企画に対して、作品の展示、授賞式会場の設営などを体験することで、様々なことを学ぶことができました。

授賞式会場の設営や進行においては、準備段階から学芸員の方を中心にスタッフの役割分担が決められていました。当日はその役割を行うだけでなく、受賞者を迎える者としての立ち居振る舞いなどを、館長、ス

タッフの方々の姿勢を目の当たりにして多くのことを学びました。それは、学芸員としての立場だけでなく、社会人として当たり前のように立つものが非常に多いように思いました。学芸員は、存在すること自体がすべてをスムーズに進めさせる存在であると思います。このように資格を持つ者が職責の下で全体の流れを把握して、その人を中心に様々な作業が行われていきます。中心となる人物のいる大切さを感じました。また、資格を持つということでもその人自身の役割を自覚させる効果があり、周りの人々も中心となる人物がいることで、多くの部分で安心して仕事が行えるのではないかと思います。

実習を通じて、この鷹山宇一記念美術館の存在意義について感じたことは、この館は広く地域に根付いた美術館であるということです。今回の鷹山賞児童作品展も、地域の小学生に作品を募集し、多くの応募作品から受賞作品が選ばれ展覧されています。美術館の立地条件も国道4号に面した道の駅にあり、非常に立ち寄りやすい場所だと思いました。ただ、残念な点もあり、一つは、外部に対して広告や宣伝があまりなされていないということです。もう一つは、入り口の看板以外に美術館をPRする表示がなく、場所がわかりにくいということです。これら二つの問題に対して、ホームページなどといった情報媒体をうまく利用して改善することが、入館者数の増加につながる糸口になるのではないかと思います。

●美術館日誌●

【12月】

- ▼1日/町立城南小学校3学年児童・引率教員鷹山賞を見学。青森放送館長を取材(県美の一年を振り返る)。
- ▼2日/いちようっ子くらぶ「イチヨウで染めよう」開催
- ▼5日/館長青森出張(生涯学習審議会専門委員会出席)
- ▼7日/美術館設置国道4号案内看板撤去契約のため国交省青森河川国道事務所ご担当者様来館
- ▼8日/群馬県立館林美術館へ貸出の鷹山木版返却
- ▼9日/あいおい損害保険株式会社広報部長平根浩次様、広報部倉田多佳子様ご来館(椿絵展会場下見)
- ▼10日/鷹山宇一誕生記念日「遊蝶記」、終日無料開館。「遊蝶記の集い」開催
- ▼12日/RABサービスとの椿絵展打ち合わせ会議。火曜サロン開催会場(ふるぼん)
- ▼15日/消防設備定期点検(昭和電気)
- ▼16日/七彩会油絵教室開催。佐伯青森出張(青い森ファンド中間報告)
- ▼19日/館長青森出張(椿絵展打ち合わせ、あしゅまる会議出席)
- ▼29日/美術館仕事納め
- ▼30日/年末年始休館(1月2日迄)

【1月】

- ▼3日/美術館仕事始め
- ▼4日/館長七戸町新年祝賀会出席
- ▼5日/館長青森出張(青森テレビ新年祝賀会出席)
- ▼6日/美術館招待券検討委員会
- ▼7日/館長七戸地区成人式へ出席
- ▼10日/電気定期点検(佐藤電気)
- ▼11日/RABサービスとの椿絵展打ち合わせ会議開催
- ▼16日/館長青森出張(女性フォーラム出席)。鼻煙壺受入検討会議
- ▼19日/友の会役員会、役員美術館スタッフ懇親会開催(会場:杉屋敷)
- ▼20日/七彩会油絵教室開催。館長八戸市出張(放送大学主催講演会)。古屋敷・佐伯PCエクセル初級講習会(小川原湖青年の家、21日迄)
- ▼22日/美術館ロビー電球交換増山電工)。館長物産館新年会出席
- ▼23日/館長青森出張(生涯学習審議会専門委員会)
- ▼25日/館長岩手県盛岡市出張(東北美術館会議、26日迄)
- ▼28日/いちようっ子くらぶ「イチヨウでおしゃれな紙袋」開催
- ▼30日/館内整備のため臨時休館(2月9日迄)。RABサービスとの椿絵展打ち合わせ会議開催。セコム定期点検



▲節分豆まき。今年は北北西に向かって恵方巻を丸ごと1本静かに食べました。

【2月】

- ▼3日/節分豆まき。子どものワークシヨップ番外編「節分のお面づくり」開催。古屋敷PCエクセル応用編講習会(小川原湖青年の家、4日迄)
- ▼4日/あつと！くらぶ「雪像づくり」開催
- ▼5日/大池青森出張(青森マスターレッジ検討委員会)
- ▼8日/絵馬懇談会開催
- ▼10日/七彩会油絵教室開催。常設展初日。スペイン民芸資料館臨時休館(鷹山コレクションランプ調査及び清掃点検作業のため)
- ▼14日/宮内康氏建築物雑誌掲載のため美術館を取材(館内外を写真撮影)
- ▼16日/館長七戸高等学校にて講演会
- ▼17日/館長十和田市出張(60才の「づい」講演会)。盛田稔先生叙祝祝



▲絵馬懇談会にて資料チェックの様子。国指定「南部七戸町観音堂庶民信仰資料」並びに「南部七戸小田子不動堂奉納絵馬」は絵馬収蔵庫に保管、一般公開されています。年に一度、所有者である見町観音堂講中代表・金見康一郎氏と、小田子不動堂講中代表・小田隆一氏のお二方にこ来館いただき、お預かりしている資料の現状をチェックしていただいています。



▲鼻煙壺コレクター沖正一郎氏(左)。鼻煙壺とは、元々は粉タバコに様々な好みの香りをつけて鼻に直接擦りつけ楽しむための容れ物です。現在では類い希な美しい工芸品として愛好されています。

鷹山宇一ランプコレクション

一部展示替えしました



支柱がブロンズ彫刻、陶器製のランプなど、11点を入れ替えしました。

- ▼18日/鼻煙壺コレクター沖正一郎様ご夫妻、「ご一行様」ご来館
- ▼20日/RABサービスとの椿絵展打ち合わせ会議開催
- ▼22日/館長青森出張(生涯学習審議会)。古屋敷浅虫出張(椿絵展グッズ打ち合わせ)
- ▼23日/七戸町名誉町民「故榎哲夫先生」逝去に伴う偲ぶ会へ館長出席
- ▼25日/佐伯東京都出張(H18年度美術館等運営研究協議会出席、27日迄)
- ▼26日/大池高知県出張(アンパンマンミュージアム視察、28日迄)
- ▼27日/友の会「南仏・パリ研修旅行」近畿日本ツーリストとの打ち合わせ

連載

幡山つてどんな人(その五)

(財)鷹山宇一記念美術振興会

常務理事 濱中 達男

明治四十年から幡山は、美術研精会の孤塁の死守と、郷土の十和田湖を世に紹介することに専念します。それまでの画人としての実績と人脈を背景に行動を開始し、翌、明治四十一年には、五戸出身の鳥谷部春汀の力を借りて大町桂月を十和田湖へ招き、文筆をもって紹介と開発に参加してもらいます。

自らは台湾、中国、朝鮮の旅をして、十和田湖の景勝の優位性を益々確信します。「支那周遊図録」、「十和田湖景画譜」(序文・大町桂月)、「十和田湖大観」など出版物をもって宣伝に努め、また中央と青森との人的交流にも体を張って努めています。幡山が十和田湖開発に関わり始めてから、昭和十一年二月一日、十和田湖が国立公園指定を受けるまでの経過を整理してみますと……

明治二八年(二十歳)
・六月、初めて十和田湖を探勝する。
明治四十年(三十二歳)
・師匠・広業の逆鱗に触れる。
・この頃、東京に「奥南郷友会」があり、招かれて先輩の鳥谷部春汀と会い、共に十和田湖紹介を誓い合う。

明治四十一年(三十三歳)
・鳥谷部春汀は大町桂月に薦めて、平福百穂を加え、十和田湖探勝に同行する。
・桂月はその後、探勝記を雑誌「太陽」に掲載する。
明治四十二年(三十四歳)

・地方長官会議に出席した武田千代三郎青森県知事が、「太陽」に目をとどめた東宮(後の大正天皇)から十和田湖の景勝について質問を受ける。
大正二年(三十八歳)
・美術研精会の幹事を辞す。
・藤村義朗男爵に誘われ、台湾、中国、朝鮮を周遊旅行。(半年間)
大正三年(三十九歳)
・「支那周遊図録」を出版する。
大正七年(四十三歳)
・土方久元伯爵を十和田湖へ案内し、各宮様方の御成りをお願いする。
大正八年(四十四歳)
・秩父宮、高松宮様十和田湖へ御成り。

大正十年(四十六歳)
・日本画家・飛田周山と八甲田より十和田湖へ同行。(十和田紀行)
大正十一年(四十七歳)
・「十和田湖景画譜」を出版。大町桂月が序文を書く。
大正十二年(四十八歳)
・東京漫画団を秋田、青森へ案内する。
大正十五年(五十一歳)
・美術研精会の職責を一切辞し、神、儒、仏、三教を説く川合清丸翁を訪ねる。
昭和二年(五十二歳)
・「十和田湖大観」を出版する。十和

田湖を好んで描き、十和田湖宣伝紹介に努めた。「十和田湖景画譜」「十和田湖大観」は共に天覧を賜っている。

・この頃、七戸小学校時代の同級生の書家・藤島百人(松園)も幡山と合作で十和田湖賛詩を多く残す。
昭和五年(五十五歳)
・「竹内文書」の研究に没頭。
昭和六年(五十六歳)
・国立公園法施行
・秋田魁新報に、「十和田湖の開発闡明とその思ひ出」など数回寄稿。
昭和十年(六十歳)
・藤村義朗男爵の知らせを受けて、北海道帰りの国立公園調査委員を青森に迎える必要性を県知事に通報し、その後一行浅虫、蕨に迎え、十和田湖の景勝を委員に説く。
昭和十一年(六十一歳)
・二月一日、富士箱根、吉野熊野と共に十和田湖が国立公園に指定されて、「十和田国立公園」誕生。

幡山の行動様式は、画家に留まらず多岐にわたっています。若くして寺崎門下の塾頭として組織を束ね、後に美術研精会創設に深く関わり、各界に人脈を得て、会運営に大きな役割を果たしています。そして十和田湖開発についても在京の郷土出身者との交友を密にしながら政財界、官界、宗教界、文学界、そして皇室まで人脈を広げて、スケールの大きい活動を展開し、北東北の後進性の返上を夢見て、身を挺して闘ってい

ます。画家幡山が十和田湖を「絵」で表現し、世に紹介出来たことは何にも換えがたい説得力があったのではないかと思います。

以前にも触れましたが、十和田湖及びその周辺に神秘的靈感を感じた幡山には、超常現象を肯定したり、超国粹主義者の傾向があり、昭和五年からは、偽史として有名な「竹内文書」の研究に没頭し、竹内巨磨と共に、荒唐無稽なことを考える人たちの一人としても名を連ね、後に、竹内巨磨と共に三戸郡戸来村で、イエスキリストの墓、古代ピラミッドを発見したと発表するなど変人、奇人扱いされた面もあります。今日の言え、超古代史研究者、大口マシチストと云うところでしょうか？時は昭和六年、わが国に於いて国立公園法が施行され、有名景勝地各々では国立公園として指定を受けたため激しい運動合戦が行われていたのに、郷土の十和田湖が狙に乗っていなかつたことを思いますと、幡山が誇大妄想的捏造をもってでも十和田湖とその周辺の宣伝に努めることは、国立公園指定への急務であり、PR作戦であつたようです。それにしてもその背景に「道の奥の人」「北僻の人」と蔑まれていた北東北(青森)出身である幡山の、私利私欲の無い郷土愛があつたとすれば、現代の私たち北東北人にとっても「痛快感」さえ覚えるのであります。

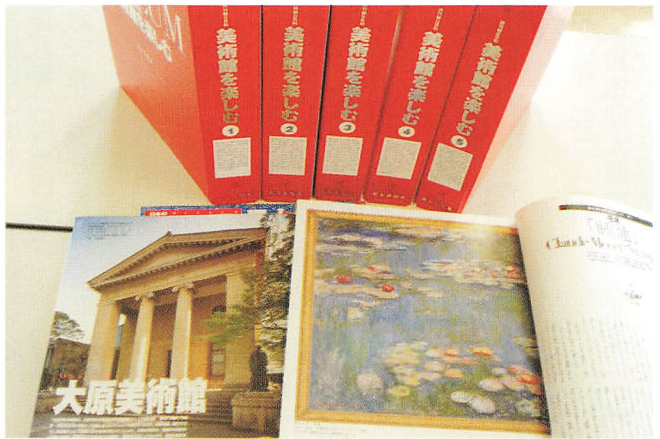
つづく

“美術館めぐりの旅を楽しむ” 画集のご紹介！！

このほど友の会では会員の皆様に美術館で楽しい時をお過ごしできるよう
画集を購入しましたのでご紹介します。



週刊朝日百科「MUSEUM 日本の美術館を楽しむ」シリーズ全50巻は、岡山県倉敷市の『大原美術館』を始めとして各都道府県毎に代表的な美術館を取り上げ解説しているシリーズです。各美術館の主要作品の鑑賞のほか旅行の前の下調べにも大変便利な画集です。
また、「世界の美術館」全100冊シリーズも備えております。併せてご利用ください。



▲写真集3冊は、いずれもアウレリオ・アメントラ氏によるミケランジェロの作品を中心とした写真集で、モノクロ写真と美術史家の解説によって詳細に紹介しております。
1.『ミケランジェロ ピエタ』
2.『サン・ピエトロ』
3.『ミケランジェロ メディチ家礼拝堂』

友の会会員登録の更新と

新規会員入会お誘いのおお願い

平成18年度も会員の皆様には、友の会運営に多大なお力添えをいただき、誠に有難うございます。

早速に更新された会員の皆様へ厚く御礼申し上げます。新年度も鷹山宇一記念美術館の応援と会員の皆様方に芸術・文化に一層親しんでいただけるよう研修旅行、講演会などを企画し、微力ながらも地域文化に寄与していく所存でございます。皆様には一層のご理解とご協力を賜りたく、引き続き会員登録の更新をお願い申し上げます。なお、更新手続きは、美術館窓口と同封の郵便振替により随時行っております。

○一般会員

会費(個人) 年度会費3千円

特典

- ① 無料入館券3枚。会員証提示により入館料2割引
- ② ミュージアムグッズ1割引
- ③ 研修会、講演会への招待、優待
- ④ 他美術館等の視察研修への優待参加
- ⑤ 会報の配布

○特別会員

会費(個人・法人) 年度会費1万円

特典

- ① 会員証提示により個人・法人会員とも本人及び同伴者1名まで無料入館
- ② 新規加入の方に画集1冊贈呈

○賛助会員

会費(個人・法人) 年度会費2万円

特典

- ① 会員証提示により個人・法人会員とも本人及び同伴者3名まで無料入館
 - ② 新規加入の方に画集1冊贈呈
 - ③ 特別企画展の都度、招待券を贈呈
- 詳しくは、美術館までお問い合わせ下さい。

森田さん、ありがとうございました。花松さん、いつもありがとうございます！

★平成6年11月の設立以来友の会のお世話をしてくださった森田省子さんが、この3月を以て美術館を退職致します。会員の更新や友の会事務に細やかなご配慮を頂きました。本当に有り難うございました。

★後任は花松朝美さんです。森田さん同様友の会のお世話をよろしくお願ひ致します。会員の皆様、どうぞ励ましのお声を掛けてくださいませ。

編集後記

★国内研修、今年も期待に応えられる企画をと検討中です。
★第3回海外研修旅行「南仏・パリ印象」を訪問しては、いよいよ6月の出発となります。最終説明会も終わり、36名の参加者の心はフランスへ！
★本号は、美術館の平成19年度企画掲載のため発行が遅くなりました。ご容赦下さい。(EIT)